

日本語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 Semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語学概論	日本語史の方法	2	大木 一夫	3	前期 月曜日 2講時	国語学概論
日本語学概論	方言研究	2	中西 太郎	4	後期 月曜日 5講時	国語学概論
日本語学概論	日本語文法論要理	2	大木 一夫	4	後期 火曜日 2講時	国語学概論
日本語学概論	物語論とことばのバリエーション	2	甲田 直美	4	後期 火曜日 3講時	国語学概論
日本語学基礎講読	古典語講読	2	中西 太郎	3	前期 火曜日 3講時	国語学基礎講読
日本語学基礎講読	古典語講読	2	大木 一夫	4	後期 月曜日 2講時	国語学基礎講読
日本語学各論	文章・談話の構造論	2	甲田 直美	5	前期 月曜日 3講時	国語学各論
日本語学各論	日本語文法研究	2	大木 一夫	5	前期 木曜日 2講時	国語学各論
日本語学各論	日本語文法史研究	2	宮地 朝子	集中(5)	集中講義	国語学各論
日本語学各論	方言研究の開拓	2	中西 太郎	6	後期 水曜日 2講時	国語学各論
日本語学講読	日本語分析法I－語の意味分析	2	大木 一夫	5	前期 火曜日 2講時	国語学講読
日本語学講読	日本語分析法II－言語変化研究	2	大木 一夫	6	後期 木曜日 2講時	国語学講読
日本語学演習	方言調査法	2	中西 太郎	5	前期 水曜日 2講時	国語学演習
日本語学演習	ナラトロジーと語りの実際	2	甲田 直美	6	後期 月曜日 2講時	国語学演習

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB31501, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語史の方法

2. Course Title (授業題目) : An introduction to Japanese historical linguistics

3. 授業の目的と概要：言語の歴史は古い文献を探ればわかるように思えるが、文献だけが言語の歴史を知る資料になるわけではない。また、古い文献を探ることにもさまざまな問題がある。そこで、ここでは、日本語の具体的な例を見ながら、言語の歴史（日本語の歴史）を探る方法について考える。同時に、古代語から現代語まで変化してきた日本語の歴史の概要を把握したうえで、日本語の歴史をとらえるための視点について解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Although it would seem that the history of a language can be found by exploring old literature, literature is not the only source for the history of a language. There are also various problems in exploring old literature. Therefore, here we will consider how to explore the history of a language (the history of the Japanese language) by looking at specific examples of the Japanese language. At the same time, after grasping an overview of the history of the Japanese language as it has changed from ancient to modern languages, we will explain the perspectives from which the history of the Japanese language can be captured.

5. 学習の到達目標：(1) 日本語の歴史について、その流れを略述し、重要事項が説明できるようになる。

(2) 言語の歴史を明らかにする方法について説明できるようになる。

(3) 日本語の歴史および日本語史の方法に関する問題点を見出し、それを説明することができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) be able to outline the history of Japanese language,

(2) be able to explain important matters of Japanese language history,

(3) be able to explain how to reveal the history of language.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 ことばは変化する

第2回 ことばはなぜ変化するのか

第3回 信頼できるテキストを求めて(1)

第4回 信頼できるテキストを求めて(2)

第5回 文献にあらわれた言語の性格(1)

第6回 文献にあらわれた言語の性格(2)

第7回 文献による言語の歴史

第8回 文献以前の言語の姿をさぐる

第9回 言語の地域差と言語の歴史(1)

第10回 言語の地域差と言語の歴史(2)

第11回 方言による言語史と文献による言語史

第12回 言語の体系性と言語の歴史

第13回 社会のなかの言語と言語変化

第14回 試験と解説

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

上記の「到達目標」に即して、筆記試験およびいくつかの講義内の課題で総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

テキスト：大木一夫『ガイドブック日本語史』ひつじ書房2013。その他、必要な資料・テキストは印刷して、あるいはPDFで配布する。

参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：(1) 指示されたテキストの必要範囲を読み、十分理解して参加する。

(2) 前回の講義内容およびそれに関わる事項を確認し、その要点を身につける。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

講義時にスマートフォン、タブレット、ノート型コンピュータなどのインターネットに接続できるデバイスを使用する（いずれでもかまわない）。

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LB41501, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言研究

2. Course Title (授業題目) : Dialectology

3. 授業の目的と概要： 方言は身近な存在だけに、研究の対象にはならないと思っている人が多い。しかし、方言は日本語学の研究分野のひとつとして位置づけられている。そもそも方言とは何なのか、それを研究するにはいかなる方法があるのか、あるいは、実際に日本語の方言はどのようなになっているのか、そういった問題をこの授業では取り上げる。音韻、アクセント、語彙、文法など基本的な内容のほか、方言の運用的側面や歴史的側面、現代社会における方言の位置づけもテーマとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : There are a lot of people who think a dialect isn't made the target of a study only in close existence. But a dialect is placed as one of a research field of study of Japanese language. I disqualify for such problem what kind of way is that it's here or that what happens to a Japanese dialect actually at this session for after all what a dialect is to study that. In addition to basic content such as phonology, accent, vocabulary, and grammar, themes include dialect usage and history, and the significance of dialects in modern society.

5. 学習の到達目標：(1) 方言に対する関心を高め、研究の対象として考えることができる。

(2) 方言学について概括的な知識を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) To increase interest in dialects and to be able to consider them as a subject of research.

(2) To acquire a general knowledge of dialectology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：方言の区画、方言の東西差

第 3 回：周圏論的分布、逆周圏論的分布

第 4 回：いろいろな分布、グロットグラム

第 5 回：発音の地域差、アクセントの地域差

第 6 回：イントネーションの地域差、アスペクトの地域差

第 7 回：条件表現の地域差、方言のオノマトペ

第 8 回：あいさつの地域差、話の進め方の地域差

第 9 回：コミュニケーションの意識の地域差、待遇表現の地域差

第 10 回：共通語化・標準語化、方言と共通語の使い分け

第 11 回：伝統方言の現在、中間方言の発生

第 12 回：新しい方言の発生と広がり、近代化によることばの地域差

第 13 回：方言の社会的位置づけの変遷、地域資源としての「方言」

第 14 回：ヴァーチャル方言と方言ステレオタイプ、社会現象としての「方言」

第 15 回：半期の総括

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

期末レポート(70%)・授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(30%)

9. 教科書および参考書：

木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ(2013)『方言学入門』三省堂、ISBN：9784385363936

10. 授業時間外学習：授業の前にテキストの授業範囲に目を通し、疑問点、具体例などを洗い出しておくこと。また、授業終了後には、テキストの内容を復習するとともに、当該授業のトピックについて身の回りの人々の言葉を観察し、体験的・具体的に理解するように努めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB42202, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語文法論要理
2. Course Title (授業題目)：An introduction to Japanese grammar
3. 授業の目的と概要：言語はおよそ文という単位をもち、語という単位をもつ。その文や語のもつ構造やその構成の規則を考えていくのが文法論である。ここでは、その文法論について、文法論はなぜそのようなように考えるのか、その結果、どのような帰結が導かれるのかということを考えていく。対象とする言語は現代日本語を中心とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：A language is composed of sentences and words. Grammatical theory considers the structure of sentences and words and the rules of their composition. In this class, we will discuss the theory of grammar, why the theory of grammar thinks the way it does, and what results are derived from it. The target language is mainly modern Japanese.
5. 学習の到達目標：(1) 文法論の視点、考え方が説明できるようになる。
(2) 日本語の文法事象について説明できるようになる。
(3) 文法論的に考え、その結果について説明できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students
(1) To be able to explain the viewpoints and ways of thinking of grammatical theory.
(2) To be able to explain grammatical matters in Japanese.
(3) To be able to think grammatically and explain the results
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 「文法」への問い
第2回 言語単位をとりだす
第3回 文(1)
第4回 文(2)
第5回 文(3)
第6回 文の構造と類型(1)
第7回 文の構造と類型(2)
第8回 文の構造と類型(3)
第9回 品詞
第10回 語
第11回 活用
第12回 文法的時間表現
第13回 ムードとモダリティ
第14回 終助詞
第15回 文末音調、まとめ
8. 成績評価方法：
上記の「到達目標」に即して、筆記試験および講義内の小課題で総合的に評価する。詳細は開講時に示す。
9. 教科書および参考書：
必要な資料・テキストは印刷して、あるいはPDF で配布する。参考文献は講義内で随時提示する。
【主要参考文献】
庵功雄『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第2版』スリーエーネットワーク 2012
益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法 第3版』くろしお出版 2024
ウェイリー, L. J. 『言語類型論入門 言語の普遍性と多様性』1997 (大堀壽夫他訳、岩波書店 2006)
10. 授業時間外学習：前回の講義内容およびそれに関わる事項を確認し、その要点を身につけて次時にのぞむこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
講義時にスマートフォン、タブレット、ノート型コンピュータなどのインターネットに接続できるデバイスを使用する（いずれでもかまわない）。

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LB42301, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：物語論とことばのバリエーション
2. Course Title (授業題目) : Narratology and Variation in Japanese Language
3. 授業の目的と概要：・物語を具体的に考えながら、言語学とその隣接領域について、一定の知識を得る。
・言語は、ジャンル、地域、時代、使用者、媒体等によるバリエーションについて、広がりを見せる。本講義では物語とことばの関係を扱う。物語で使用されることば、物語と他のジャンルとの違い、語られることばの特徴など、「物語」をキーワードに日本語を分析する事例と分析方法について講義する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course introduces narrative analysis in Japanese language variations. Variety is a specific set of human speech patterns. Viewing language as a realization of language use, the focus of the course is on examining the interrelationship between narratives in sounds, words, grammatical features, and people's language use in everyday life.
5. 学習の到達目標：物語を具体的に考えながら、言語学とその隣接領域について、一定の知識を得る。
(1) 物語論をとおして我々が日常使用している言語を観察・記述できるようになる。
(2) 会話分析の基本的技能を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : While considering the story in concrete terms, students will gain a certain knowledge of linguistics and its adjacent areas.
To develop student's ability to analyze language in everyday life
To develop student's ability to do Conversation Analysis (CA)
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 物語と人間—言語分析の領域—
 2. 『星の王子さま』に見る世界の言語—比較・対照言語学—
 3. 物語と談話の法則—文法論—
 4. 音と耳から考える物語—音声学—
 5. 物語の翻訳—意味論—
 6. 物語と時間—談話分析—
 7. 構造主義と神話研究—音韻論—
 8. 物語の技巧—物語論—
 9. 物語の共通性—物語の種類論—
 10. ドラマ・アニメの構造とシナリオ術—シナリオ術—
 11. マンガと視点現象—マンガ学—
 12. 雑談と「もの」語り—会話分析—
 13. ケアの物語—語用論—
 14. コミュニケーション・ツールとしての物語—コミュニケーション論—
 15. 研究の方法
8. 成績評価方法：
出席 30%、提出物 50%、期末レポート 20%
9. 教科書および参考書：
テキストおよびプリントを用いて解説する。
『物語の言語学—語りに潜むことばの不思議』甲田直美（2004）ひつじ書房
10. 授業時間外学習：実際にデータ収集をし、観察・分析を行い、レポートを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：日本語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LB32303, 科目ナンバリング：LHM-LIN212J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古典語講読

2. Course Title (授業題目) : Reading Japanese classics

3. 授業の目的と概要：日本語学の基礎として、古典作品を読み、理解する手続きを学ぶ。また、そこにみられる日本語史上の問題について検討を加える。参加者は日本語史上の問題について調査・考察をおこない報告する。報告にあたっては、文献の調査・発表資料の作成など事前の準備が必要となる。作品は『虎明本狂言集』。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, you will learn the procedures for reading and understanding classical works as the basis of Japanese linguistics and Japanese studies. The text is "The Kyōgen collection written by Toraakira". You are required to prepare for class according to the goal and contents of each class.

5. 学習の到達目標：(1) 古典語の文献資料を読むことができるようになる。とくに、変体仮名を読むことができるようになる。

(2) 文献による日本語史研究の手続きを理解し、それにしたがって調査をおこなうことができるようになる。

(3) 調査にもとづき報告し、議論をおこなうことができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) Be able to read materials in ancient Japanese languages. In particular, variant kana.

(2) Understand the procedures for studying Japanese language history, and conduct research accordingly.

(3) Be able

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 古典語と古典作品、『虎明本狂言集』
3. 日本語史の研究を知る
4. 『虎明本狂言集』を読む(1)
5. 『虎明本狂言集』を読む(2)
6. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(1)
7. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(2)
8. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(3)
9. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(4)
10. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(5)
11. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(6)
12. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(7)
13. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(8)
14. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(9)
15. 『虎明本狂言集』と日本語史的分析(10)・まとめ

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(50%)、発表内容(30%)、授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(20%)

9. 教科書および参考書：

テキスト：池田廣司・北原保雄『大蔵虎明本狂言集の研究』(表現社)、初回講義時にテキストの一部を配布する。

その他の参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：テキストの指定範囲を読んで参加する。

日本語史的分析のための調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB41205, 科目ナンバリング：LHM-LIN212J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古典語講読

2. Course Title (授業題目) : Reading Japanese classics

3. 授業の目的と概要：日本語学の基礎として、古典作品を読み、理解する手続きを学ぶ。また、そこにみられる日本語史上の問題について検討を加える。参加者は日本語史上の問題について調査・考察をおこない報告する。報告にあたっては、文献の調査・発表資料の作成など事前の準備が必要となる。作品は『源氏物語』。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, you will learn the procedures for reading and understanding classical works as the basis of Japanese linguistics and Japanese studies. The text is "The Tale of Genji". You are required to prepare for class according to the goal and contents of each class.

5. 学習の到達目標：(1) 古典語の文献資料を読むことができるようになる。とくに、変体仮名を読むことができるようになる。(2) 文献による日本語史研究の手続きを理解し、それにしたがって調査をおこなうことができるようになる。(3) 調査にもとづき報告し、議論をおこなうことができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

- (1) Be able to read materials in ancient Japanese languages. In particular, variant kana.
- (2) Understand the procedures for studying Japanese language history, and conduct research accordingly.
- (3) Be able

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 古典語と古典作品、『源氏物語』
3. 『源氏物語』を読む(1)
4. 『源氏物語』を読む(2)
5. 『源氏物語』と日本語史的分析(1)
6. 『源氏物語』と日本語史的分析(2)
7. 『源氏物語』と日本語史的分析(3)
8. 『源氏物語』と日本語史的分析(4)
9. 『源氏物語』と日本語史的分析(5)
10. 『源氏物語』と日本語史的分析(6)
11. 『源氏物語』と日本語史的分析(7)
12. 『源氏物語』と日本語史的分析(8)
13. 『源氏物語』と日本語史的分析(9)
14. 『源氏物語』と日本語史的分析(10)
15. 『源氏物語』と日本語史的分析(11)・まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

テキスト：青表紙本源氏物語（新典社、影印本）、大木一夫『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房 2019。

その他の参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：テキストの指定範囲を読んで参加する。

日本語史的分析のための調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LB51302, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文章・談話の構造論

2. Course Title (授業題目)：Discourse and Conversation Structure

3. 授業の目的と概要：文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1)文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2)会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。

1. コンピューターを用いて文体を計量する技術、2. 引用と話法に着目したデータの収集、分析について学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course deals with the foundations of discourse and conversation analysis. Do these two approaches simply study the same things, but in different ways? This course compares conversation analysis (CA) with discourse analysis (DA) as methodological approaches to the study of talk.

5. 学習の到達目標：(1)近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2)授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。(3)実際に言語データが分析できるように、コンピューターによる計量文体、および話し言葉における引用と話法に着目して、データを収集し分析の基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of conversation analysis and discourse analysis, and compare two approaches to the study of talk.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～

2. 物語作品の享受と分析

3. ジェンダーと日本語

4. 引用と話法

5. コーパス, 言語のバリエーション

6. 文体の指標

7. 文体を計量する

8. 接続詞と言語ジャンル

9. 文学作品と電子化資料

10. コンコーダンサー

11. 特徴語の分析

12. 話し言葉における技巧性

13. 音声データの収集と加工

14. 研究の進め方

15. レポートの書き方

8. 成績評価方法：

レポート [60%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [30%]

9. 教科書および参考書：

参考書：甲田直美(2024)『物語の言語学—語りに潜むことばの不思議』ひつじ書房

その他の参考文献は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。

音声言語コミュニケーションのための分析単位 IUの実際をデータと対照する。

会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。

論文を読んで論点を提出する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

毎回コンピューターを持参すること。

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB54204, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語文法研究

2. Course Title (授業題目)：Study of Japanese grammar

3. 授業の目的と概要：現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、名詞収束型文。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course focuses on the grammatical phenomena of modern Japanese and conducts grammatical analysis. Through this, you deepen your understanding of Japanese grammar. The theme is noun convergent sentences.

5. 学習の到達目標：(1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。

(2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。

(3) 文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students

(1) be able to explain the contents of previous research in Japanese grammar research,

(2) be able to find problems in the analysis viewpoint and logical development of Japanese grammar,

(3) be able to thi

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：文法研究とは何か

第3回：先行研究の分析について

第4回：テーマ概説

第5回：研究史の分析(1)

第6回：研究史の分析(2)

第7回：研究史の分析(3)

第8回：研究史の分析(4)

第9回：分析実践(1)

第10回：分析実践(2)

第11回：分析実践(3)

第12回：分析実践(4)

第13回：分析実践(5)

第14回：分析実践(6)

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：(1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。

(2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester：5 単位数：2

担当教員：宮地 朝子

コード：LB98816, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語文法史研究
2. Course Title (授業題目) : Historical study of Japanese grammar
3. 授業の目的と概要：日本語の文法変化の具体的事例として機能語（助詞）の確立過程を取り上げ、言語の変化と多様性およびそれを支える構造について考える。日本語の、音韻、形態、統語・意味的な側面が相互に関連しながら変化していく様相を観察し、個々の形態の変化を条件付けたり制約として作用したりする語彙の意味や構造的特性と、変化をもたらす言語運用上の諸条件の関係について考察する。言語変化の把握や記述・分析法の一例を提示するとともに、さまざまな立場を批判的に検討し、言語の変化や多様性にかかわる諸現象を分析する手法を身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The main aims of this course are to explore properties of syntax and syntactic change in the history of Japanese. Some aspects of morphology, semantics and pragmatics are also included where relevant. We will survey selected changes and discuss different accounts, that will also introduce various approaches to syntactic change. This course deals with the factual linguistic knowledge and the specialized knowledge on historical development of Japanese functional morphemes. It also help students acquire the skills and proficiency needed for historical study on Japanese grammar.
5. 学習の到達目標：・日本語の文法史的变化について問題を設定し、語彙の意味や構造的特性、言語運用上の諸条件の関係について考察することができる。
 - ・日本語の文法史研究の諸説に対し、要点と問題点を精確につかんで批判的に検討できる。
 - ・文法変化の条件を明らかにする文法史研究を自ら実践することができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : By the end of the course, students should be able to:
 - ・ Understand the relationship between grammatical changes and language use from the perspective of language history.
 - ・ Compare and contrast alternative theories and approaches in terms of their underlying
7. 授業の内容・方法と進度予定：

文法変化の事例として、名詞ほかさまざまな形態に由来する体言性の機能語（主に副助詞類）の確立と展開を取り上げる。
※授業の進度等の状況に応じて、内容・順序には多少の変更を行う場合がある。

 1. ガイダンス：日本語史概観
 2. 言語変化とは：変化・多様性をとらえる視点
 3. 助詞の文法史 概観
 4. 副助詞と係助詞、並立助詞と接続助詞
 5. 体言・名詞の多様性と文法
 6. 事例1-ダケの史的展開 (1) 形式名詞から形式副詞へ
 7. 事例1-ダケの史的展開 (2) 形式副詞から接続助詞・副助詞へ
 8. 事例1-ダケの史的展開 (3) ダケとバカリ
 9. ディスカッション：文法史の諸問題
 10. 事例2-シカ類の史的展開 (1) 方言形式の多様性
 11. 事例2-シカ類の史的展開 (2) 否定極性と文法変化
 12. 事例3-ナラデハの史的展開 (1) 中古・中世前期
 13. 事例3-ナラデハの史的展開 (2) 中世後期・近世
 14. 事例3-ナラデハの史的展開 (3) 近代から現代へ
 15. まとめ：変化と普遍、現象と構造
8. 成績評価方法：

平常点（参加姿勢20％・小課題30％）および期末のレポート課題（50％）の総合評価による。
9. 教科書および参考書：

特定の教科書は指定しない。スライド資料等を提示する。
【参考書】主なもののみ。そのほかは授業中に随時提示する。

 - ・宮地朝子『日本語助詞シカに関わる構文構造史的研究』ひつじ書房、2007
 - ・大木一夫編『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房、2019
 - ・青木博史・高山善行編『日本語文法史キーワード事典』ひつじ書房、2020
 - ・此島正年『国語助詞の研究 助詞史素描』桜楓社、1966
10. 授業時間外学習：(1) 授業時に提示する小課題に取り組む
(2) 参考文献や配布資料を読んで内容を検討し、問題点や発展的課題として指摘すべき箇所を見出す
(3) 期末レポート課題へ向けて問題を設定し、参考文献の参照、用例の調査を行う
11. 実務・実践的授業/Practical business
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practical business》

1 2. その他：なし

メールアドレスは開講時に提示する。

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LB63203, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言研究の開拓

2. Course Title (授業題目)：Pioneering Dialect Studies

3. 授業の目的と概要： これまでの方言研究では、ことばの運用の地域差の解明に資する資料の蓄積とそれを用いた研究がまだ十分とは言えなかった。また、それらも含めたことばの総合的な地域差の研究成果をもとに、研究成果を社会に還元する取り組みにもさらなる展開の余地があると言える。

近年ではことばの運用の地域差解明に向けた理論と研究視座が発展し、ことばの地域差の研究成果を応用する実践的方言学も展開している。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な言語運用の地域差の記述、分析、応用を通してさまざまな課題について検討していく。

今回は特に、これまで研究が進んでいなかった言語行動や感動詞、談話などを取り上げる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： Conventional dialect research has yet to accumulate enough data that would contribute to the clarification of regional differences in the use of language and to conduct research using such data. There is also room for further development in efforts to return research results to society based on the results of comprehensive research on regional differences in language, including regional differences in language use.

In recent years, theories and research perspectives have been developed to elucidate regional differences in language use, and practical dialectology has also been developed to apply the results of research on regional differences in language use. In this class, the purpose and methodology of such research will be explained, and various issues will be discussed through the description, analysis, and application of regional differences in specific language operations.

This time, we will particularly focus on linguistic behavior, interjections, and discourse, which have not been studied before, and consider their structure, variation, and regional differences in operation, and also examine their historical aspects.

5. 学習の到達目標：(1)講義でテーマにする研究領域の知見と研究動向を理解し説明できる

(2)講義でテーマにする研究領域の分析を的確にできる

(3)ことばの研究成果を応用する実践的な取り組みができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1)Understand and explain the findings and research trends of the research topics covered in this lecture

(2)To be able to analyze accurately the research topics in this lecture

(3)To be able to apply the results of research in dialectology in a practice

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(1)

第3回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(2)

第4回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(3)

第5回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(1)

第6回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(2)

第7回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(3)

第8回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(1)

第9回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(2)

第10回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(3)

第11回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(1)

第12回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(2)

第13回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(3)

第14回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(4)

第15回：半期の総括

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(50%)、発表内容(30%)、授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：(1)言語行動や感動詞、談話について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

(2) 研究発表のための分析、資料作成などの準備を行う。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：日本語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB51206, 科目ナンバリング：LHM-LIN313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語分析法Ⅰ-語の意味分析

2. Course Title (授業題目)：Methods of analyzing the Japanese language I:analysis of word meanings

3. 授業の目的と概要：言語にとって意味というものは欠かすことのできない側面であるが、それをとらえるのは思いのほかむずかしい。そこで、ここでは語の意味にしぼって、それがどのようなものであるのかを検討する。検討にあたっては、現代日本語の類義語をとりあげ、具体的な例文にもとづき類義語の差異を分析し、また、議論しながら、語の意味について考えていくことにする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, we will examine the meanings of words. We will take up synonyms in modern Japanese, analyze the differences between synonyms based on concrete example sentences, and consider the meaning of words through discussion.

5. 学習の到達目標：(1) 言語における意味、意味分析の方法の概略が説明できるようになる。

(2) 現代日本語の具体的な例文にもとづき、語の意味を分析することができるようになる。

(3) 言語調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students

(1) To be able to give an outline of meaning in language and of methods of semantic analysis.

(2) To be able to analyze the meaning of words based on concrete examples of modern Japanese.

(3) To be able to

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 日本語研究の技法
3. 語の意味とは何か
4. 意味分析の方法①
5. 意味分析の方法②
6. 意味分析の実践①
7. 意味分析の実践②
8. 意味分析の実践③
9. 意味分析の実践④
10. 意味分析の実践⑤
11. 意味分析の実践⑥
12. 意味分析の実践⑦
13. 意味分析の実践⑧
14. 意味分析の実践⑨
15. 意味分析の実践⑩、まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要な資料、テキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：意味および意味研究の方法にかかわる文献資料を読んで参加する。

意味分析の方法について検討する。

類義語の意味についての調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB64207, 科目ナンバリング：LHM-LIN313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語分析法II -言語変化研究
2. Course Title (授業題目)：Methods of analyzing the Japanese language II: study of language change
3. 授業の目的と概要：日本語史研究は、古い時代の日本語がどのような姿であったのかという点は、かなり精細に明らかにしてきている。それに対して、言語はどのように変化するのか、また、言語はなぜ変化するのかという観点からの分析が十分ではない。そこで、日本語の歴史におこった言語変化をあとづけながら、そこにはどのような変化があったのか、また、なぜ変化したのかという観点からの分析を加える。参加者が調査・考察をおこなって、その成果を発表し、議論する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, we will clarify the linguistic changes that have occurred in the history of the Japanese language, and analyze them from the viewpoint of what kind of changes there were and why they occurred. Participants will conduct their own research and considerations, present their findings, and discuss them.
5. 学習の到達目標：(1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
(2) 日本語史上の言語変化の問題点を見いだすことができるようになる。
(3) 言語変化をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students
(1) be able to read literature related to the study of Japanese language history.
(2) be able to find the problem of language change in Japanese language history.
(3) be able to conduct research to clarify
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. 言語変化研究の現状(1)
 3. 言語変化研究の現状(2)
 4. 言語変化研究の現状(3)
 5. 言語変化研究の問題意識(1)
 6. 言語変化研究の問題意識(2)
 7. 言語変化についての研究発表(1)
 8. 言語変化についての研究発表(2)
 9. 言語変化についての研究発表(3)
 10. 言語変化についての研究発表(4)
 11. 言語変化についての研究発表(5)
 12. 言語変化についての研究発表(6)
 13. 言語変化についての研究発表(7)
 14. 言語変化についての研究発表(8)
 15. 言語変化についての研究発表(9)、まとめ
8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。
9. 教科書および参考書：

テキスト：大木一夫編『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房2019。
その他、必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。
10. 授業時間外学習：日本語史研究・言語変化研究にかかわる文献資料を読んで参加する。
言語変化の過程、要因の研究方法について検討する。
日本語史上の言語変化についての調査をおこなう。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：日本語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LB53204, 科目ナンバリング：LHM-LIN314J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言調査法

2. Course Title (授業題目)：Method of the dialect investigation

3. 授業の目的と概要： 方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。

なお、コロナウィルス感染症の影響で現地調査が困難な場合は、オンライン調査に切り替えて実施する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： Investigation method to grasp structure of a dialect and a geographical expanse is considered specifically. Dialectology by a dialect geography in addition to a descriptive study and social dialectology or a vernacular document is taken up. The record of dialect conversation is made one theme. A dialect investigation is performed actually in the second half in a semester or the summer holidays, so a participant has to participate in that from the stage of preparations. If it is difficult to conduct a field survey due to the effects of coronavirus infection, we plan to switch to an online survey.

5. 学習の到達目標：(1)方言調査の調査内容・方法を立案・検討できる

(2)方言調査の実施計画を立てて方言調査を実践できる

(3)方言調査の結果を報告し、議論を踏まえて次の研究課題を見つけることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To be able to plan and examine the contents and methods of a dialect survey

(2) To be able to plan the implementation of a dialect survey and practice dialect research

(3) To be able to report the results of a dialect survey and find the next research

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明

2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業

3. 方言的特徴の調べ方についての解説 (1)

4. 方言的特徴の調べ方についての解説 (2)

5. 方言的特徴の調べ方についての解説 (3)

6. テーマ等設定に向けての作業 (1)

7. テーマ等設定に向けての作業 (2)

8. テーマ中間報告 (1)

9. テーマ中間報告 (2)

10. 調査票の作り方についての解説

11. 模擬調査と録音機の使い方

12. 調査票の検討(1)

13. 調査票の検討(2)

14. テーマ最終報告 (1)、調査実施準備

15. テーマ最終報告 (2)、授業のまとめ

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(50%)・授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(30%)・発表内容(20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜授業で指示する。

10. 授業時間外学習：(1)テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。

(2)現地調査に参加し、結果の分析を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LB61204, 科目ナンバリング：LHM-LIN314J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ナラトロジーと語りの実際
2. Course Title (授業題目)：Narratology in Practice
3. 授業の目的と概要：物語の分析理論が、実際の語りや物語作品のことばの分析にどのように適用できるかを演習をとおして体験する。物語にはフィクションとしての物語作品の他に、日常会話における語り（ナラティブ）も含む。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Through exercises, students will experience how the theory of narrative analysis can be applied to the analysis of the language of actual narrative works. Narratives include not only fictional narrative works but also narratives in everyday conversation.
5. 学習の到達目標：物語の理論をもとに語りや物語作品を具体的に分析する。
語りのデータを会話分析による記述法から扱う。
語りのデータベースを作成する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) be able to analyse narrative works based on narrative theory.
(2) be able to handle narrative data in spoken language from descriptive methods based on conversation analysis.
(3) be able to create a database of narratives.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 授業の概要
 2. 物語の分析理論 1
 3. 物語の分析理論 2
 4. 語りの分析
 5. ナラティブ分析の現在
 6. 物語作品の分析 1
 7. 物語作品の分析 2
 8. 物語作品の分析 3
 9. 会話データの分析 1
 10. 会話データの分析 2
 11. 語りの分析 1
 12. 語りの分析 2
 13. 研究発表の実際 1
 14. 研究発表の実際 2
 15. 研究の公表へ向けて
8. 成績評価方法：
授業参加および提出物による。
9. 教科書および参考書：
『物語の言語学—語りに潜むことばの不思議』甲田直美(2024)ひつじ書房
10. 授業時間外学習：扱う言語資料（文献および言語データ）を事前に読んでおく。語りのデータベースを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし